

報告事項 エ

国際交流ライブラリー講演会の開催について

国際交流ライブラリー講演会の開催について、別紙のとおり報告します。

令和2年2月6日

鳥取県教育委員会教育長 山本 仁志

令和元年度国際交流ライブラリー講演会の実施について

令和2年2月6日

図 書 館

鳥取県立図書館では、環日本海諸国をはじめとする各国の地域文化・歴史等について理解を深めることと、図書の利用促進を目的とし、国際交流ライブラリー講演会（全3回）を開催している。

今年度は、英語多読、韓国食文化、ロシア文化をテーマに市町村立図書館と共催し、東中西部3会場で開催した。また、会場では講演会の関連図書展示を行った。

1 第1回（中部会場）開催結果

- (1) 日 時 令和元年12月1日（日）午後2時から4時まで
- (2) 会 場 倉吉交流プラザ2階 第一研修室
- (3) 共 催 倉吉市立図書館
- (4) 後 援 公益財団法人鳥取県国際交流財団
- (5) 内 容
 - ア 演題 「親子多読 絵本とアニメで楽しい英語！」
 - イ 講師 酒井 邦英 氏（NPO多言語多読理事）
 - ウ 内容 親子で一緒にできる英語多読について理解を深める。（英語多読とはやさしい英語をたくさん読むことで楽しみながら英語を身につける方法。）
- (6) 参加人数 47名
- (7) 参加者の感想
 - ・新鮮で興味がわいた。楽しかった。
 - ・多読仲間が見つかって嬉しかった。
 - ・0歳児の子がいるが、一緒に多読をしてみたいと思う。

2 第2回（東部会場）開催結果

- (1) 日 時 令和元年12月21日（土）午後2時から4時まで
- (2) 会 場 鳥取県立図書館 2階 大研修室
- (3) 後 援 公益財団法人鳥取県国際交流財団
- (4) 内 容
 - ア 演題 「日韓食文化比較一似て非なる文化の理解」
 - イ 講師 朝倉 敏夫 氏（立命館大学食マネジメント学部長）
 - ウ 内容 日本と韓国の食文化比較を通じて、隣国への文化・歴史理解を深める。
- (5) 参加人数 32名
- (6) 参加者の感想
 - ・韓国にも食にも関心があるので、比較文化論の中でお話を聞かせてもらい本当におもしろかった。紹介されていた本をぜひ読みたいと思った。
 - ・食文化を理解するなかで、韓国と日本の文化や風習そのものの違いを考えさせられた。
 - ・食だけでなく、世代間ギャップ、文化の変容にまでカバーした大変興味深い話だった。

3 第3回（西部会場）開催結果

- (1) 日 時 令和2年1月25日（土）午後2時から4時まで
- (2) 会 場 米子市立図書館 2階 多目的研修室
- (3) 共 催 米子市立図書館

(4) 後 援 公益財団法人鳥取県国際交流財団

(5) 内 容

ア 演題 「ノスタルジーと熱狂 ロシアとロシア文化を考える」

イ 講師 亀山 郁夫 氏 (名古屋外国語大学学長)

ウ 内容 過去千年以上におよぶ歴史のなかで、文学、芸術の領域に数々の天才を生んできたロシアの文化的魅力の源を、二つのキー概念を手掛かりにして探る。

(6) 参加人数 182 名

(7) 参加者の感想

- ・音楽と文学、話題豊富で大変おもしろかった。先生の翻訳本をさっそく読みたい。
- ・多岐にわたる内容を柔らかく表現してくださった。豊かな音楽の引用も貴重な体験だった。
- ・とても楽しみにしてきた。先生は熱意がありとてもよかった。

4 成果

- ・参加者の年齢層は幅広く、親子を対象とした第1回目は講演だけでなくワークショップによる参加型で、子どもから大人まで楽しみながら英語多読について理解を深められた。第2回以降も高校生から高齢者まで様々な世代の人がテーマに関心を持っていることがわかり、それぞれに満足していただける内容だった。また、県外からの参加者もあった。
- ・講師は各分野の第一人者であり、広く参加者が興味を持ってくださった。
- ・開催後は関連図書の貸出も多く、図書館利用の促進に繋がった。
- ・共通の話題を得て、参加者同士のコミュニケーションへと繋がっている場面もあった。

5 今後の取り組み

参加者層が幅広く、国際理解及び生涯学習の一端を担っていると感じられる。今後も継続し、関係機関と密に連携しながら生涯学習の場を提供していきたい。

また、隣国についての情報や資料を地道に収集・発信し、鳥取県が交流している環日本海の国々についても、引き続き図書館としての交流や、国際理解のための活動をしていきたい。



第1回講演会様子



第1回 関連図書展示風景



第2回講演会様子



第2回 会場内 関連図書展示風景



第3回講演会様子



第3回 関連図書展示風景